
芝維町にて

クイーン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

芝維町にて

【Nコード】

N7817B

【作者名】

クイーン

【あらすじ】

倉田太一が不思議な出来事に遭遇する

第1話

風がそよそよと吹き、桜ではなく、季節はずれの雪が舞い散っている。

人間の生活は、ほとんど変わらないまま未来へと進みつつづけている。

人は、働き、生活のために、金を稼いでいる。

人は、欲望のまま動き、一部の人は、自分を中心として考え、一部の人は、強さを頼りに、一部の人は、金を頼りに、又、一部の人はそのどれにも属さず、ただ必死に生きている。

人間は、平凡に慣れ、今のままが一番良いことに気づき始めている。

2

俺は、くらた たいち倉田太一

俺は、今日から、旅に出る。

身支度を整え、アパートを出て、大家に、鍵を返す。

大家は、不思議そうに言う。

「どうしたのですか」

「旅に出ます。今までお世話になりました。さようなら」ときっぱり

りと別れを告げると、

「まさか、心中じゃないだろうね」と言うので、

「ちがいますよ、ちょっと大掛かりな気分転換です。」

「だったらいいけど。くれぐれも体につけて。」

「はい。」

そうして俺は、宛ての無い旅へ出た。

まずは北へ行くか。

こうして俺は北にある芝維町に向かった。

歩くこと五分芝維町についた。

あたりを見渡すと、怪しい三人組を見つけた。

俺は、好奇心をくすぐられ、その三人組を尾行した。

暗い路地裏に彼らは向かう。

それに俺は、迷わずついていく。

突然、彼らは立ち止まり、ふりむく。

俺は、びくっとして近くにあったゴミ箱に隠れる。

彼らは、安心した様子で手を動かして何かをしている様子を見ると、俺は、ふう〜と胸をなでおろす。

これはかなりのスリルを味わえそうだ。

しかし、運命とは残酷なものだ。

「ぶわっくしょん」

言うまでも無く俺は見つかってしまった。

その後のことは、全く覚えていない。黒い布をかぶせられたからだ。

ただ、このことだけは言いきれぬ。

俺は、部屋に閉じ込められ、急に息苦しくなった。

そして、俺は死んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7817b/>

芝維町にて

2010年10月21日21時50分発行